

平成19年11月7日
原子力安全対策課
(19-70)
<18時30分記者発表>

大飯発電所2号機の定期検査状況について (2次系主給水配管曲がり部の減肉)

このことについて、関西電力株式会社から下記のとおり連絡を受けた。

記

大飯発電所2号機(加圧水型軽水炉;定格電気出力117.5万kW)は、平成19年9月30日より第21回定期検査中のところ、2次系配管点検の一環として、主給水隔離弁から蒸気発生器までの主給水配管(原子炉格納容器バウンダリ内)について、超音波による肉厚測定を実施した結果、本日、4系統ある主給水配管のうち、C-主給水隔離弁下流の配管曲がり部で、計算必要厚さ(15.7mm)を下回っている箇所が確認された。(測定最小値:10.9mm)

なお、A、B、D-主給水隔離弁下流の配管曲がり部については、今定期検査で実施した肉厚測定の結果、計算必要厚さを上回っていることが確認されている。

今後、当該部を切断して原因調査を実施する。

このことによる周辺環境への影響はない。

(経済産業省によるINESの暫定評価尺度)

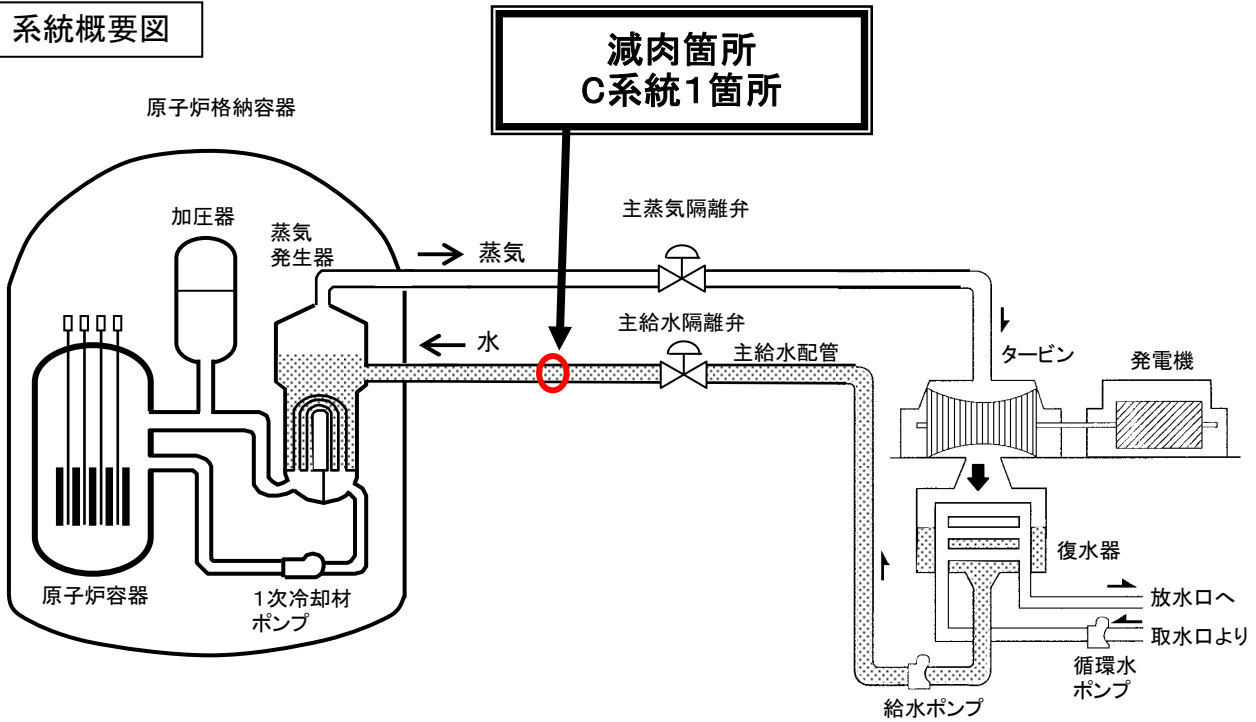
基準1	基準2	基準3	評価レベル
—	—	0-	0-

INES:国際原子力事象評価尺度

問い合わせ先(担当:藤内)
内線2354・直通0776(20)0314

2次系主給水配管曲がり部の減肉について

系統概要図



測定結果

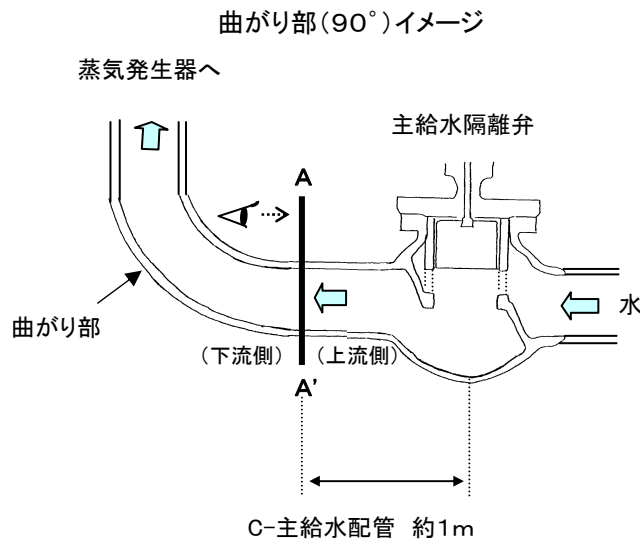
配管形状	必要最小厚さ	実測最小値
A-主給水配管曲がり部(45°)	15.7mm	21.0mm
B-主給水配管曲がり部(90°)		21.5mm
C-主給水配管曲がり部(90°)		10.9mm※
D-主給水配管曲がり部(90°)		19.0mm

※定点測定(8点)にて減肉が確認された周辺を、詳細(約20mmピッチ)に測定した値

配管仕様

外径: 約406mm
 厚さ: 約21mm
 最高内圧: 約8MPa
 最高温度: 約230℃
 材質: 炭素鋼
 流量: 約1,700t/h・ループ

C-主給水配管曲がり部の減肉状況



(C-主給水配管曲がり部を下流側から見た断面)

